

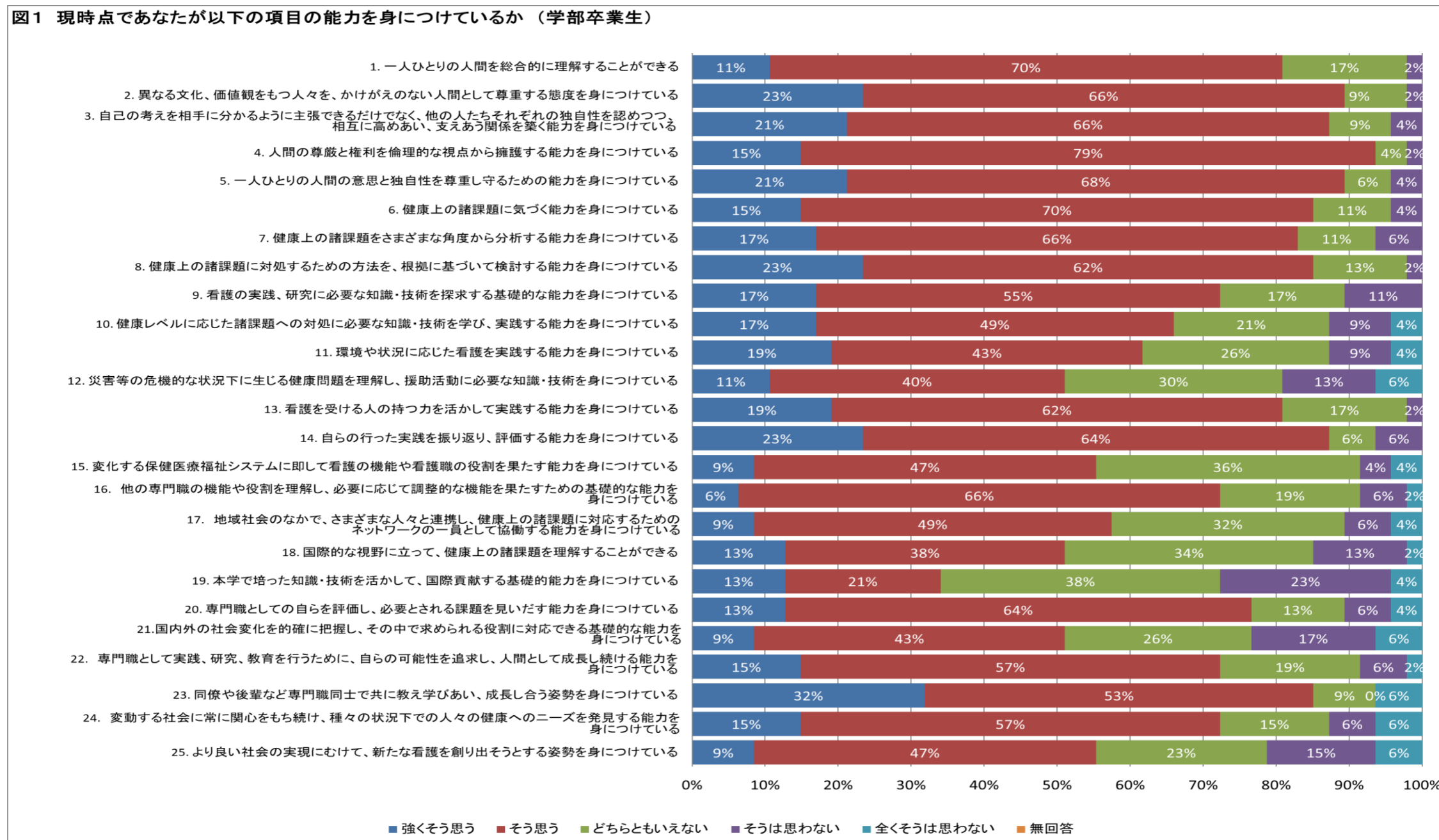
2017年度、2018年度に卒業した学部生に対して、卒業後2年目、3年目になった今、日本赤十字看護大学での学びを振り返り、どのような力が身についたのか聞いた。

【調査時期】 2020年12月

【調査対象者】 2017年度、2018年度看護学部卒業生44名（2017年度卒業生23名、2018年度卒業生21名） 回答者のうち35名が赤十字関連施設に勤務。

【回答率】 14.2%

【結果】



卒業2，3年目で身につけていると感じている割合の高い順に上位5つは、以下の通りであった（強くそう思う、そう思うを合わせた割合）。

- ・人間の尊厳と権利を倫理的な視点から擁護する能力(94%)
- ・一人一人の人間の意思と独自性を尊重し守るための能力（89%）
- ・異なる文化、価値観をもつ人々を、かけがえのない人間として尊重する態度（89%）
- ・自己の考えを相手にわかるように主張できるだけでなく、他の人たちの独自性を認めつつ、相互に高めあい、支えあう関係を築く能力(87%)
- ・自らの行った実践を振り返り、評価する能力(87%)

反対に、身につけているという回答が低かったのは、以下の通りであった。

- ・本学で培った知識・技術を活かして、国際貢献する基礎的な能力（34%）

自由記載からは、本学で学んだことが卒業後にどのように活かされているかについて、「考え方を丁寧に学ぶことができた」「授業だけでなく、実習でも担当教員が記録物を1つ1つ添削してくれるため、考え方の方向性を身につけることはできたと思う」という回答があった。カリキュラムについて「現在の国際問題を理解する上で、その足がかりとなる学問を強化してほしい」という要望もあった。

上記の2017年度、2018年度に卒業した学部生が就職した施設の看護管理者に対して、卒業後2年目、3年目の卒業生が平均的にどのような力を身につけているか質問した。

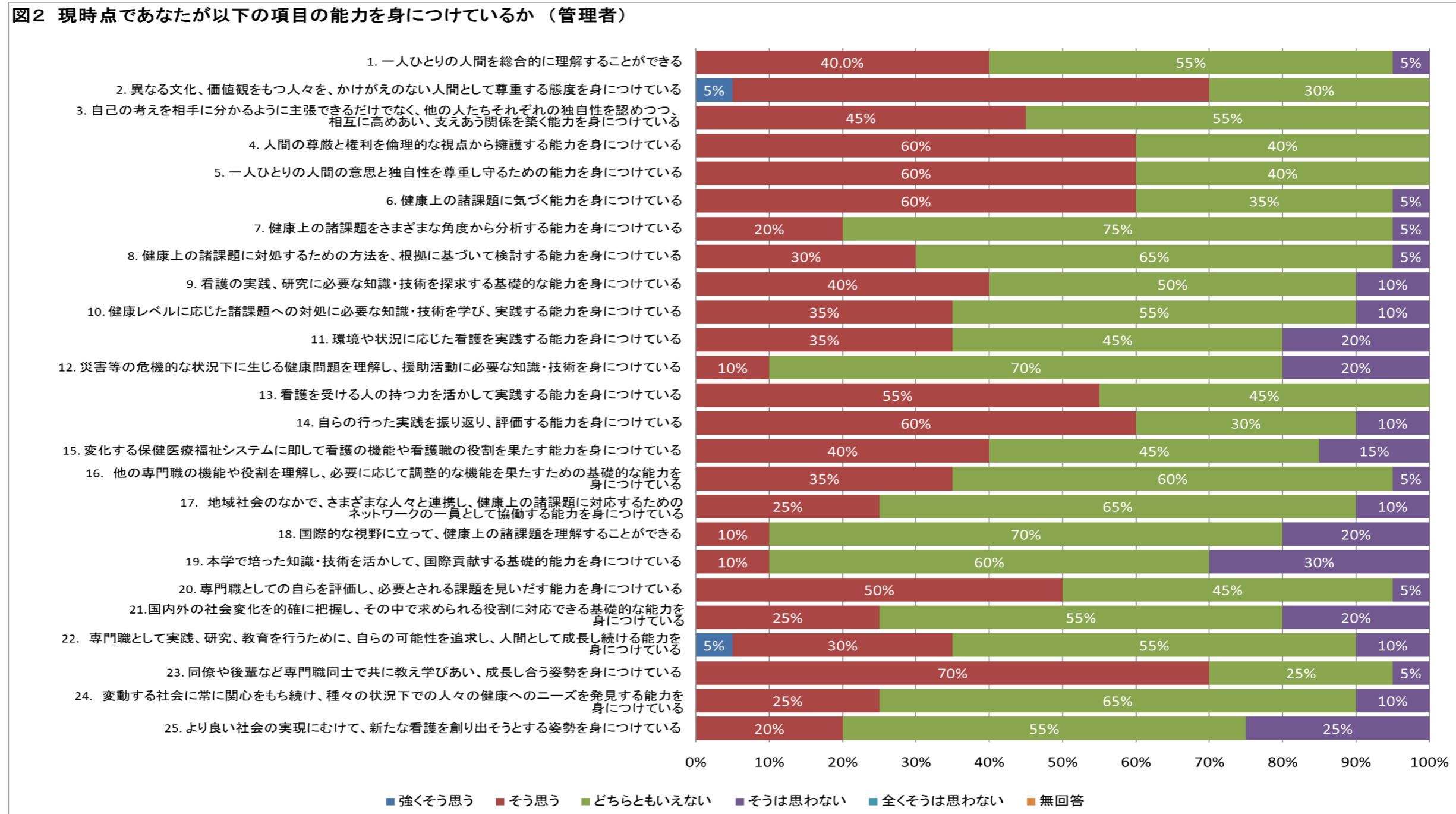
【調査時期】 2020年12月

【調査対象者】 2017年度、2018年度看護学部卒業生が2名以上就職した医療施設の管理者19名

回答者のうち11名が赤十字関連施設の看護管理者。

【回答率】 70.4%

【結果】



看護管理者が本学卒業2、3年目の看護師が身につけていると感じる力について、割合の高い順に上位5つは、以下の通りであった（強くそう思う、そう思うを合わせた割合）。

- ・異なる文化、価値観をもつ人々を、かけがえのない人間として尊重する態度（70%）

- ・同僚や後輩など専門職同士で教え学びあい、成長しあう姿勢（70%）
- ・一人一人の人間の意思と独自性を尊重し守るための能力（60%）
- ・人間の尊厳と権利を倫理的な視点から擁護する能力(60%)
- ・健康上の諸課題に気づく能力(60%)
- ・自らの行った実践を振り返り、評価する能力(60%)

反対に、身につけているという回答が低かったのは、以下の通りであった。

- ・災害等の危機的な状況下に生じる健康問題を理解し、援助活動に必要な知識・技術(10%)
- ・国際的な視野に立って、健康上の諸課題を理解する（10%）
- ・本学で培った知識・技術を活かして、国際貢献する基礎的能力（10%）

自由記載からは、「人を全人的に捉え、大切にしているのがよいと思います。看護実践については時間を要する人もいますが、3年目ぐらいになるとリーダーシップを発揮できるようになっています」「赤十字に関する学習が深く修得できており、倫理観が高い。患者に寄り添った看護が実践できる看護師が多い」という意見があった。一方で、「赤十字に対しての理解が思った以上に無い事を残念に思う。」という意見もあった。